

「保育と現代ビジネスのためのデータサイエンス教育プログラム」

宮崎学園短期大学の「保育と現代ビジネスのためのデータサイエンス教育プログラム」が、令和4年8月に文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定されました。



MDASH Literacy
 Approved Program for Mathematics, Data science and AI Smart Higher Education
数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度
 リテラシーレベル

教育プログラムの概要

プログラムの教育目標

・高度情報化時代に対応した人材が求められる社会において、ビジネス業界や保育士・幼稚園教諭として求められる「数理・データサイエンス・AI」の基礎的知識と技術を日常生活及び仕事に応用できるように身につけ、未来の職場で活躍できる人材を養成することが本プログラムの目標です。

プログラムの概要

- ・本プログラムは本学に在学する全学科の学生を対象としています。
- ①保育科は、一般教養科目の自然科学分野において開講される「情報処理概論Ⅰ・Ⅱ」の2科目(合計2単位)を必修科目とし、同分野の「数学」(2単位)、専門教育科目の「教育方法と技術」(2単位)が選択科目になります。
- ②現代ビジネス科は、一般教育科目の自然科学分野において開講される「情報処理概論A」と専門教育科目の「情報処理概論B」の2科目(合計4単位)を必修科目とし、一般教育科目の「情報処理演習」(1単位)が選択(推奨)科目になります。
- ③修了要件を満たした学生には「宮崎学園短期大学DS教育プログラム(リテラシー)修了認定証」が発行されます。

プログラムの構成

- ①保育科 情報処理概論Ⅰ・Ⅱ (合計2単位):必修
 数学(2単位)と教育方法と技術(2単位):選択
- ②現代ビジネス科 情報処理概論A・B(合計4単位):必修
 情報処理演習(1単位):選択(推奨)

プログラムの修了要件

・本プログラムを校正する各学科の必修科目を修得することが修了要件です。卒業年度の年度末にプログラム修了を認定します。なお、プログラムへの参加・修了認定に際し、申請等の手続きは不要です。単位取得完了をもって自動的に修了認定し、修了認定証を発行します。

教育プログラムの構成

高度情報化時代に対応した人材が求められる中で、本学はビジネス業界や保育士・幼稚園教諭として活躍する人材を育成し、連続して高い就職率を達成している。また、本学はディプロマポリシーに基づいて、卒業する際には誰もが仕事の現場で即戦力となり得る社会人スキルを持てるように、基礎から応用に至るまで段階的に学べる履修モデルを構築している。近年では、小学校から高校までの情報教育の導入が促進され、大学に入学してくる学生の更なるスキル向上が必要となっていることから、本プログラム「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」の認証校の選定を受けた。

- 【目的】 1. Society5.0の社会において求められる「数理・データサイエンス・AI」を日常生活及び仕事に使用できるよう基礎的知識と技術を身につける。
 2. ロジカルシンキングの向上を図り、問題が発生したときにも自ら考え、適切な判断力によって解決へと導けるようになる。
 3. PC・IoT・ビッグデータ・AIの利活用スキルを向上でき、主体性をもってデジタル化社会に対応できるようにする。

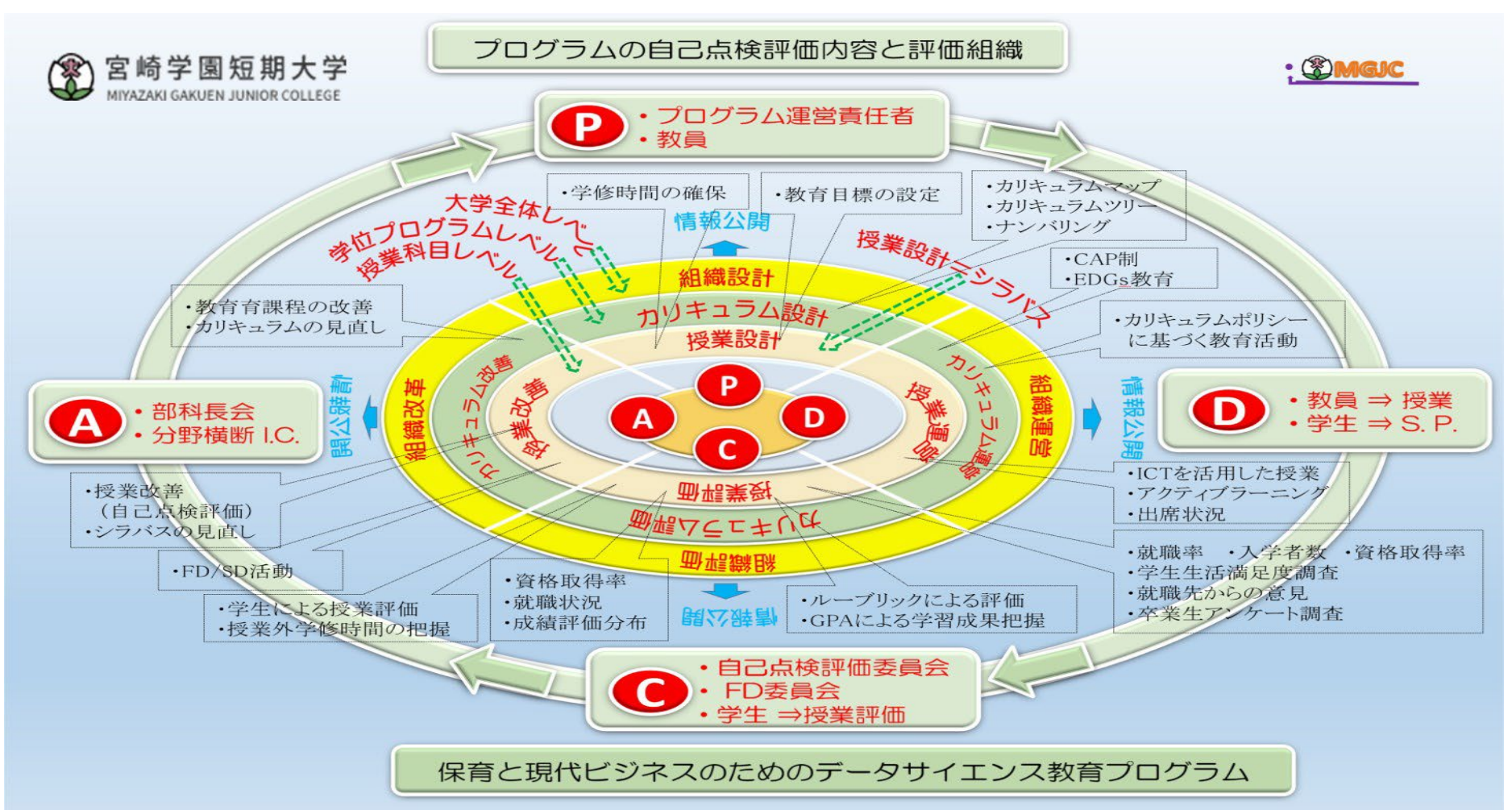
学科の目指す進路	保育科	現代ビジネス科
職業・業界・進学	保育士、幼稚園教諭、保育関連企業等	ビジネス、メディカル、司書、メディア、情報通信、IT関連、観光、貿易、小売、製造、航空運送業等

プログラムを校正するモデルカリキュラムと認証評価項目

	情報処理概論Ⅰ	情報処理概論Ⅱ	教育方法と技術	数学	情報処理概論A	情報処理概論B	情報処理演習
導入	1-1. 社会で起きている変化	○	△	○	○	△	
	1-6. データ・AI活用最新の動向						
	1-2. 社会で活用されているデータ	△	△		○	△	
	1-3. データ・AIの活用領域						
基礎	1-4. データ・AI活用のための技術	○	○	△	△	○	
	1-5. データ・AI活用の現場						
	2-1. データを読む		○		△	△	
心得	2-2. データを説明する			○			
	2-3. データを扱う						
選択	3-1. データ・AIを扱う上での留意事項	○	○		○	△	
	3-2. データを守る上での留意事項						
	4-2. アルゴリズム基礎						△
	4-3. データ構造とプログラミング基礎						
	必修2単位		選択科目		必修4単位		選択科目

※上の表中に表示してある△は、各認証評価項目の一部を含んで切ることとしています。

教育プログラムの実施体制



身につけることができる能力

- ・Society 5.0の社会において求められる「数理・データサイエンス・AI」の基礎的知識と技能を身につけ、日常生活及び仕事に応用できるようになる。
- ・ロジカルシンキングの向上を図ることができ、問題が発生したときにも自ら考え、適切な判断力によって、解決へと導けるようになる。
- ・PC・IoT・ビッグデータ・AIの利活用スキルを向上でき、主体性をもってデジタル化社会に対応できるようになる。
- ・SNSやIoT、ビッグデータ、AIと言った社会を取り巻く新たな情報技術に関する知識を身につけ、ネットワークに関する様々な危険性を理解し、情報セキュリティに関する正しい知識を身に付けられる。また、デジタルデータについて活用ができるようになる。

修了要件

- ・保育科の修了要件は、一般教育科目の自然科学分野において開講される「情報処理概論Ⅰ」、「情報処理概論Ⅱ」の2科目(合計2単位)を必修科目としている。「情報処理概論Ⅰ」、「情報処理概論Ⅱ」は、各々90分×15回の授業を実施する。なお、一般教育科目の「数学(2単位)」と専門科目の「教育方法と技術(2単位)」は、選択科目である。
- ・現代ビジネス科は、必修科目である「情報処理概論A」、「情報処理概論B」の2科目4単位を修得することが必須である。専門科目の「情報処理演習(1単位)」は、選択科目である。

教育プログラムを構成する講義科目・内容・方法(シラバス)

保育科のプログラムを構成する講義科目のシラバス

- 必修科目:情報処理概論Ⅰ、情報処理概論Ⅱ
- 選択科目:数学、教育方法と技術

現代ビジネス科のプログラムを構成する講義科目のシラバス

- 必修科目:情報処理概論A、情報処理概論B
- 選択科目:情報処理演習

カリキュラムマップ

[保育科のカリキュラムマップ](#)

[現代ビジネス科のカリキュラムマップ](#)

自己点検・評価

各年度における自己点検・評価を実施して公開しています。

- [令和3年度 自己点検・評価報告書](#)
- [令和4年度 自己点検・評価報告書](#)
- [令和5年度 自己点検・評価報告書](#)
- [令和6年度 自己点検・評価報告書](#)
- [令和7年度 自己点検・評価報告書](#)

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)申請書

・令和4年度「保育と現代ビジネス科のためのデータサイエンス教育プログラム」を新規申請しました。

[新規申請書 2022年](#)

・令和8年度「保育と現代ビジネス科のためのデータサイエンス教育プログラム」の再認定を申請しました。

[再認定申請書 2026年](#)